

複雑性尿路感染症に対する AC-1370 の効果

藤田公生*・中野 優・神林知幸・太田信隆
鈴木和雄・田島 惇・阿曾佳郎
浜松医科大学泌尿器科

要 旨

AC-1370 を 8 例の複雑性尿路感染症に 1 ないし 2 g 5 日間投与し、UTI 基準に合致する 7 例で 85.7% の有効率を得た。副作用は認めなかった。

新しいセファロスポリン系薬物である AC-1370, 1-((6R,7R)-2-carboxy-7-((R)-(2-(5-carboxy-1H-imidazole-4-carboxamido)-2-phenyl)acetamido)-8-oxo-5-thia-1-azabicyclo(4.2.0)oct-2-en-3-yl)methyl-4-(2-sulfoethyl)pyridinium hydroxide のナトリウム塩を第 2 相臨床試験として複雑性尿路感染症に使用し、臨床効果と副作用を検討したので報告する。

I. 対象と方法

対象は複雑性尿路感染症を有する 16 歳以上の入院患者とし、妊婦・授乳婦、重篤な肝・腎疾患を有する者、アレルギー体質の者は除外した。

上記条件にあてはまる患者について、カテーテルにより採取した尿について尿沈渣所見、ウリカルトによって細菌数を検索し、 10^4 個/ml 以上検出された細菌については MIC を測定した。患者は一般的な血算、生化学検査などを行い、本薬物に対する過敏性のないことを皮内テストで確かめたうえで投与を開始した。

投与法は 1 日 1 g ないし 2 g の 5 日間連続投与とし、1 日 2 回に分けて静注ないし点滴した。

5 日間の投与終了後に、開始時と同様な検査を行った。

結果は UTI 基準¹⁾に従って判定した。

II. 結 果

症例は 8 症例、男 7 例、女 1 例であった。Table 1 にまとめて示したが、年齢は 27 歳から 84 歳、カテーテル留置例は G-1 が 4 例、G-5 が 2 例、他に G-4 が 1 例、UTI 基準には膿尿の点で判定除外となっているが G-3 相当が 1 例であった。使用量は 1 日 1 g が 4 例、2 g が 4 例であった。

慢性の複雑性尿路感染症を対象としており、カテーテル留置例が多く、自覚症状も乏しく、膿尿の消失が容易にみられないが、細菌学的所見はかなり改善されている。

5 日間の投与後に細菌の認められたのは 2 例であり、いずれも G-1 で 1 g 投与群であった。1 例は残存菌であり *K. pneumoniae*, MIC $100\mu\text{g/ml}$ 、他の 1 例は交代菌で *S. marcescens*, MIC $>800\mu\text{g/ml}$ であった。

UTI 基準による有効率は 1 g 投与群で著効 0、有効 3、無効 1 であった。2 g 投与群では 1 例が使用前に明らかに感染があったと思われるにもかかわらず尿検査の結果は白血球数 1~2 個/1 視野となっていたので UTI 基準の判定除外とした。したがって著効 1、有効 2 であった。

有効率は全体として 85.7% である。

副作用は特に認められていない。

III. 考 察

本物質は新しい第 3 世代のセフェム系物質であり、 β -ラクタマーゼに対して安定である。*Pseudomonas aeruginosa* に対する有効性を特徴とし、好中球の食菌能の増加、あるいは血清添加で抗菌力の増加する現象が認められ、*in vivo* 効果の大きいことが期待されている²⁾。

今回 8 例の臨床例に使用したところ、条件の悪い複雑性尿路感染症であったが、UTI 基準に合致する 7 例に 85.7% の有効率を得た。

文 献

- 1) UTI 研究会(代表大越正秋): UTI 薬効評価基準(第 2 版)。Chemotherapy 28: 325~341, 1980
- 2) 第 31 回日本化学療法学会: 新薬シンポジウム II。AC-1370, 大阪, 1983

* 現 国立病院医療センター

Table 1 Clinical summary of complicated UTI cases treated with AC-1370

Case No.	Age sex	Diagnosis Underlying condition	UTI group	Treatment			Pyuria*	Bacteriuria*			Evaluation		Side effect
				Dose (gX/day)	Route	Duration (day)		Species	Count	MIC (10 ⁶) (µg/ml)	UTI	Dr.	
1	84 M	Chronic cystitis B.P.H.	G-1	1g X 2	d.i.	5	(+++) (+)	<i>P. mirabilis</i> (-)	10 ⁷	1.56	Moderate	Moderate	(-)
2	33 M	Chronic pyelonephritis Hydronephrosis	G-1	0.5g X 2	d.i.	5	(++) (+)	<i>P. aeruginosa</i> (-)	10 ⁷	6.25	Moderate	Moderate	(-)
3	27 M	Chronic pyelonephritis Renal stone	G-1	0.5g X 2	d.i.	5	(++) (++)	<i>K. pneumoniae</i> <i>K. pneumoniae</i>	10 ⁷ 10 ⁴	100 100	Poor	Poor	(-)
4	76 M	Chronic cystitis Prostatic carcinoma	G-1	0.5g X 2	d.i.	5	(+) (++)	<i>E. coli</i> (-)	10 ⁷	1.56	Moderate	Moderate	(-)
5	79 M	Chronic cystitis Bladder neck sclerosis	G-5	0.5g X 2	d.i.	5	(++) (-)	<i>A. calcoaceticus</i> <i>S. faecalis</i> <i>S. marcescens</i>	10 ⁷ 10 ⁴ 10 ³	200 >800 >800	Moderate	Moderate	(-)
6	81 M	Chronic cystitis Bladder tumor	G-5	1g X 2	d.i.	5	(++) (++)	<i>A. faecalis</i> <i>S. epidermidis</i> (-)	10 ⁴ 10 ³	25 50	Moderate	Moderate	(-)
7	79 M	Chronic cystitis B.P.H.	G-4	1g X 2	i.v.	5	(+++) (-)	GPB (-)	10 ⁴		Excellent	Excellent	(-)
8	55 F	Chronic pyelonephritis Ureteral stone	(G-3)	1g X 2	d.i.	5	(-) (-)	<i>E. coli</i> (-)	10 ⁵	100	-	Moderate	(-)

* Before treatment
After treatment

AC-1370 THERAPY FOR COMPLICATED URINARY TRACT INFECTION

KIMIO FUJITA*, MASARU NAKANO, TOMOYUKI KANBAYASHI,
NOBUTAKA OHTA, KAZUO SUZUKI, ATSUSHI TAJIMA and YOSHIO ASO
Department of Urology, Hamamatsu University School of Medicine

AC-1370, a new cephalosporin derivative, was used for 5 days in a daily doses of 1 g or 2 g. Four of 8 patients with complicated urinary tract infection received 1 g, and other 4 patients received 2 g daily of AC-1370. Seven of 8 patients responded to the therapy. No complication attributable to the therapy was observed.

* Present address: National Medical Center Hospital Tokyo